

あらゆる技術や方法を使いながら、腰痛に悩むすべての人を助けていきたい。

腰の病は最新の検査と手術でその多くが治る可能性がある一方で、「腰痛は治らない」と決めつけてしまっている人も少なくないのではないだろうか。そんな現状を打破するため、日本国内で、あえて整形外科分野で保険診療に加えて、自費診療にまで取り組む病院がある。腰痛と奮闘する、院長の伊藤全哉氏に話を聞いた。

「背骨、腰は体の大黒柱、痛みが我慢できなくなると駆けなくなってしまいます。また、手術なしで治療できたはずの腰痛も、悪化してしまうと手術するしかなくなる」という例も少なくありません。まずは、悪化する前に来院してほしい。腰痛が治らないのは過去の話で、現在は腰痛の9割近くは治る可能性があると私は考えています」。

腰痛に関する診断を早く、正確に下すために、あいちせぼね病院はMRIを4台、そのほかレントゲン、CTを加えた検査設備を導入している。たとえば脊椎の精密検査を行う場合は16ミリと7ミリの内視鏡治療ですが、私は3ミリのものも使用します。患者さんの多くは高齢者ですから、体の負担を軽減するよう心掛けなければなりません。そのためのベストな選択とは何なのか。そこを突き詰めて考えた結果、一般に国内で使われている内視鏡より細いものが、当院の脊椎ドックと呼ばれる検査では、1日で済ませることができる。

「MRI、CT、レントゲンは医療保険制度上、一度に検査を行うことが難しいです。最大3回も来院することになり、患

者さんはその間ずっと痛みを抱えます。当院では自費診療と保険適用の診療の違いをきちんとご説明した上で、自費診療をお選びいただいた患者様には一度に検査を行って診断を下し、手術が必要ならば次回の来院で行います。たった2日の来院で済ませる一発診断の一発治療です。これは圧倒的なスピードの違いだと自負しています」。

「うした独自の取り組みは検査だけにとどまらない。手術についても、海外から最新の術式を取り入れて活用している」。

「最新の技術でより早く患者さんを助けたい。この理想を追

ういう結論に至りました」。

伊藤氏の見解では、日本の保

険診療の範囲は狭く、海外の新

しい技術は保険適用になるまで

相当な時間がかかる。現場の実

情に対し、医療行政のスピード

感が圧倒的に足りていないた

め、新技術を採用するとなると、

自費診療にするしかないのが現

状だ。同院で行っている1日検

査や内視鏡治療などは、日本で

未だ認可しづらいため、自費診

療となるが、その治療を求めて

遠方からの問い合わせもあると

いう。

「最新の技術でより早く患者

さんを助けたい。この理想を追

うるるために、自費診療という

選択肢を取り入れていくことは

必要だと思っています。保険適

用外なので、費用はかかります

が、その分新しい技術、最新の

検査機器での医業を貫いていま

す」。

最新情報入手し、実際の

治療に役立てるため、当

院はさまざまな活動を展開して

いる点にも注目したい。毎年、

海外の脊椎関連の医師を100

名ほど招き、学術発表の場を設

けているのだ。

これは地域の個人病院として

もちろんのこと、学会等を含

めて考えても、その規模は決し

て小さくない。韓国、中国、ア

ジア、欧米の医師を招いて、最

も期待したい。

The Extra Edge
世の中のトレンドをリードする
話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介
<https://www.itoortho.jp/>

伊藤全哉

ITO ZENYA

医療法人全医会あいちせぼね病院 院長

1998年、名古屋大学医学部卒業。名古屋大学附属病院などで研鑽を積み、先進技術を学ぶべく渡米。帰国後の2016年、伊藤整形・内科あいち腰痛オペクリニック副院長に就任。17年、あいちせぼね病院開院。日本整形外科学会専門医。日本協公認スポーツドクター。

